

日本の漫画が海外に受け入れられる理由

美術班：池本裕也 長崎和希 中嶋耕平

1. はじめに

日本では古くから漫画の文化が発達してきた。手塚治虫の作品などは日本だけでなく海外でも幅広い支持を得ている。そこで私たちはなぜ日本の漫画が海外に受け入れられるのかを知り、日本の古くからの文化を再認識しようと考えた。

2. 自分たちの思う漫画の魅力

海外漫画では見ることのできない秀逸なストーリー設定、そして再生紙などを使うことによる安い価格だと考えた。

3. 日米間の漫画の違い

私たちは、日本と同様に独自の歴史を持つアメリカンコミックを比較対象とすることにした。日米間の漫画の大きな違いは、連載周期と材質である。アメリカでは月に一回ほどのペースで単行本が販売されるのに対して、日本では週一ほどのペースで様々な漫画を掲載した週刊誌を発売している。また、アメリカは高級な紙を用いカラー印刷しているが、日本では先ほど述べたように安価な紙を使い、コストを抑えている。ここで私たちは、このような違いが生じたのにはそれぞれの国の歴史の違いによると考えた。

4. 日本漫画の歴史

最古の漫画は平安時代の絵巻物「鳥獣人物戯画」である。その後登場した葛飾北斎の「北斎漫画」はヨーロッパにも大きな影響を与えた。これらの漫画は世相を皮肉った自由な表現で民衆の人気を集めたが、そのような表現はしばしば幕府の規制を受けていた。明治から大正にかけては印刷技術の発達により新聞が普及した。その新聞の端の1コマに掲載されていた「1コマ漫画」により、漫画文化はより民衆に身近なものとなった。その後、1920年代、今までの世相を皮肉っていた内容とは異なり現代のストーリー漫画につながる宍戸左行の「スピード太郎」が登場した。

第二次世界大戦頃、日本では徹底した軍事的な教育が行われ漫画にも大きな影響を与えた。田河水泡の「のらくろ」では戦争を高揚する内容が多く見られるようになった。戦後には、中沢けいじの「はだしのゲン」や手塚治虫の「紙の砦」などの戦争のむごさを表現した作品が発表された。このような作品により、戦争を知らない世代も、戦争への負のイメージを持つようになった。また、こういった作品自らが住んでいる国への疑念を描いている。GHQの支配下にあった当時の日本では、戦争に関連する日本の漫画など

は規制されアメリカの作品が多く出回った。しかし冷戦後は日本漫画も発展を遂げた。

5. アメリカンコミックの歴史

アメリカ最古の漫画 1842 年のオバディア氏の冒険と言われている。この作品は今でいうコマを使った最初の作品と言われている。19 世紀にはコミックストリップが主流になった。これは特定のストーリーを一連のコマやイラストレーションにより伝える漫画の形式の 1 つである。「ふきだし」が使われるようになったのはこの形式からである。

そしてアメリカンコミックも第二次世界大戦の影響を受けた。長きにわたる戦争により、国民の不安やストレスが高まり、アメリカ国民は救世主的な存在を求めようになった。そこで登場したのがスーパーマンなどである。驚異的な力を持ったヒーローが絶対悪を倒すという内容は敵国への敵対心を明確にし、自国への信頼を深めた。アメリカは戦勝国のため経済的に豊かになり、戦争に対して前向きな考えがあった。そのようなことがあり、アメリカの国内で人気となった。

戦後はアメリカンコミックに厳しい目を向ける人々が現れた。人の死や血の表現などは子供たちにとって悪影響だということから、コミックス倫理規定委員会が発足され、すべてのコミックはそこに提出されコミック倫理規定に基づいて出版できるかどうかを判断した。コミック倫理規定の内容は「いかなる場合においても善は悪を打ち負かさなければならない」や「犯罪による死の表現の規制」といったもので、ヒーローもの主体のアメリカンコミックでは、そのような表現の規制により、内容が一辺倒なものになった。この規制は 2011 年まで続いた。

6. 日本とアメリカを比較して

(1) 日本は不況の流れから、世界に漫画を売り出していたのに対し、アメリカは主に自国で発達していた。

(2) アメリカではコミック倫理規定などの規制が近年まで続いていたため、日本ほど内容が豊かではなかった。

このような結果から日本漫画は海外に受け入れられたと考えた。

7. まとめ

実際に漫画の歴史を調べ、漫画についての知識を深めたことで日本漫画の魅力を再認識することができた。また、アメリカンコミックの歴史を調べることで、日本との関連性を認識することができた。

8. 参考

京都国際漫画ミュージアム 一般社会法人日本雑誌協会

<http://www.j-magazine.or.jp/magadata/?module=list&action=list>